

山里カフェ

—安心拠点、見守り、励まし、おしゃべりの場

池谷 啓 ●特定非営利活動法人楽舎 理事長



山里で遊ぶ子どもたち

1. 背景と目的

過疎高齢化の中に交流の場を

①この山里(浜松市天竜区春野町)の過疎高齢化は著しい。人口は50年台の1/3。10年で25%減。一人暮らしの高齢者が増える。若者や子どもは少ない。過疎化はますます進み、人々は意気消沈してゆくばかり。

②店もなくなり買い物難民も増える。コロナ禍のために祭やイベントもなく、人々は孤立化していく。お年寄りに行く所がない、気楽に語り合える場がない。

③子どもは少なく(近くの幼稚園では、年長組も年少組も4名)、子ども同士の遊べる機会が少ない。子育ての母親に負担がかかる。移住者と地元の交流する機会が少ない。街なかの人と地元の人と交流する場がない。

2. 取り組みの方法

多世代交流型の場づくり

①集落の中心に「山里カフェ」をつくる(200坪の敷地)。近くに清流の気田川が流れ、堤には桜が満開となる。ホテルが現れ散歩に適した癒やしの場である。

②屋根付きのオープンテラスを充実させる。カマドやピザ窯、机と椅子、タープを設

置する。近くの古民家を整理して、居心地のよい寄り合いの場とする。

③歌(童謡、唱歌、昭和歌謡)と体操とおしゃべりの場とする。講座(地元の歴史探究、見守り・看取り・おくり)、転倒予防教室、織物や和紙、草木染め、料理などの場とする。

④子どもたちの遊び場をつくる。放置された竹や間伐材を活用して手製の遊具、小屋づくりを行う。竹製の滑り台、ジャングルジム、スラッグラインなど。

⑤通所介護施設、地域包括、児童養護施設、私設図書館、地元自治会、カヤック教室、和紙と山繭の織物工房、買い物支援の便利屋、郷土史家など、多彩な人たちと連携、ZoomやSNSを活用して、やり取りを進めていく。

3. 期待される成果

ネットワークと過疎地の魅力発信

①世代、職種、地域を超えた人と人の交流のきっかけになる。行き場・語らいの場があることで、コミュニケーションが生まれて活気が出る。お互いにサポートし合える関係性がつくり上げられる。

②地域の歴史や文化に対する学びの機会になり、地元の暮らしに誇りと自信が生まれる。都市部もやがて高齢化社会が訪れるわけで、過疎地のこうした企画は、これからの日本の先取りともなりうる。

③過疎地の魅力発信につながる。山里の人と暮らしが発信される。まちなかの人が移住するきっかけになる。定住促進につながる。